

# 法 医 学

教授 大谷 勲  
助手 籠谷 秀  
教務員 中村 功

## ◆ 原 著

- 1) Suyama H., Nakasono I. and Ohya I. : The distribution of common phenotype of sperm diaphorase. *Forensic Science International*. **13** : 125-127, 1979.
- 2) Ohya I., Nakasono I. and Suyama H. : Apparent polymorphism of acid phosphomonoesterase in human seminal plasma by gel electrofocusing. *Act. Crim. Japon.* **45** : 87-93, 1979.
- 3) Ohya I., Fukae T. and Suyama H. : Antigenic properties of human hemoglobin A<sub>0</sub> and F<sub>0</sub>. *Act. Crim. Japon.* **45** : 94-103, 1979.
- 4) 大谷 勲, 籠谷秀翁, 山口弘信: 再び Druckblase について, *法医学の実際と研究* **22** : 149-155, 1979.
- 5) 大谷 勲: 交通事故屍に認められた環椎の完全後方(?)脱臼について, *法医学の実際と研究* **22** : 157-165, 1979.
- 6) Asano S., Sawada H., Komoriya H. and Ohya I. : Effects of methylmercuric chloride intoxication on the intracellular activity of lysosomal enzymes in rat liver and brain. *The Journal of Toxicological Science* **4** : 201-210, 1979.
- 7) Asano S., Komoriya H., Hayashi E. and Sawada H. : Changes in intracellular activities of lysosomal enzymes in tissues of rats during ageing. *Mechanisms of Ageing and Development* **10** : 81-92, 1979.

## ◆ 学会報告

- 1) 大谷 勲, 籠谷秀翁: ヒト精漿中の Adenosine-5'-monophosphate 水解活性について, 第63次日本法医学会総会, 1979. 3, 東京.
- 2) 大谷 勲, 籠谷秀翁: 交通事故屍に認められた環椎の完全後方脱臼の1例, 第54回東北法医談話会, 1979. 5, 仙台.
- 3) 大谷 勲: 人血証明のためのヘモグロビンの法医免疫学的研究とその応用(特別講演), 第24回中部鑑明会北陸地区分科会, 1979. 7, 金沢.
- 4) 大谷 勲, 籠谷秀翁: 絞殺死体からの Brom-

valerylurea 検出例, 第24回中部鑑明会北陸地区分科会, 1979. 7, 金沢.

- 5) 大谷 勲, 山口弘信: 外陰部を欠損した男性の2剖検例, 第55回東北法医談話会, 1979. 10, 天童.
- 6) 大谷 勲, 籠谷秀翁, 中村 功: ヒト精漿中の酸性ホスファターゼ2分画の精製とその性状について, 第26回日本法医学会近畿地方会, 1979. 10, 大阪.
- 7) 大谷 勲, 籠谷秀翁, 中村 功: 青酸ソーダによる母子心中例における青酸の臓器分布, 第1回東海・北陸法医談話会, 1979. 11, 名古屋.
- 8) 大谷 勲: 環椎後頭関節の転位について, 第29回日本法医学会九州地方会, 1979. 11, 宮崎.
- 9) 籠谷秀翁, 中村 功, 大谷 勲: 細胞膜障害に関する基礎的研究 第3報: 細胞膜崩壊をきたす非イオン性界面活性剤の臨界濃度について, 第24回中部鑑明会総会, 1979. 11, 福井.
- 10) 大谷 勲: 頭髮付着血液の経時変化, 第16回日本犯罪学会総会, 1979. 12, 名古屋.

## 内 科 学 (1)

教授 矢野 三郎  
助教授 浅沼 克次  
講師 伊藤 正己  
講師 中尾 皖英  
助手 加藤 弘巳  
助手 藤井 隆彦  
助手 鈴木 英彦

## ◆ 著 書

- 1) 矢野三郎, 浅沼克次, 藤井 隆: 胸腺ホルモン, 50-67, 免疫とホルモン, 共立出版, 1979.

## ◆ 原 著

- 1) 浅沼克次, 植村泰三, 中尾皖英, 藤井 隆: 性ホルモンのラットリンパ組織の発育に及ぼす影響, *日生病院医学雑誌* **7** : 195-212, 1979.
- 2) 金丸哲宏, 北川常廣, 加藤弘巳, 矢野三郎, 浅沼克次: ゲンタマイシンの酵素免疫測定法とその応用, *臨床化学シンポジウム* **18** : 211, 1979.
- 3) Ito M., Peter Ralph and Malcolm A. S. Moore: *In Vitro* Stimulation of phagocytosis in a macrophage cell line measured by a convenient radiolabeled latex bead assay, *Cell. Immunol.* **46** : 48-56, 1979.
- 4) Masuno T., Ito M., Ogura T., Hirao F.,

Yamawaki M., Azuma I. and Yamamura Y. : Activation of peritoneal macrophages by oil-attached cell-wall skeleton of BCG and *Novocardia Rubra*, *Gann* **70** : 223-227, 1979.

5) 伊藤正己: 培養マクロファージ株によるマクロファージの免疫生物学的機能の解析, 大阪大学医学雑誌 **31** (5-8) : 103-114, 1979.

6) 加藤弘巳, 森本靖彦: 神経性食思不振症における内分泌異常—GHを中心として—, ホルモンと臨床 **27** : 717-721, 1979.

7) 森本靖彦, 加藤弘巳: 下垂体性腺系, 神経性食思不振症における体重減少と下垂体性腺機能との関係について, ホルモンと臨床 **27** : 761-768, 1979.

8) 中尾皖英, 藤井 隆, 植村泰三, 浅沼克次, 多田国利, 北嶋吾省: Hairy Cell leukemia と思われる1症例, 日生病院医学雑誌 **7** (1) : 237-243, 1979.

9) Hiai S., Yokoyama H., Oura H. and Yano S. : Stimulation of Pituitary-Adrenocortical System by Ginseng Saponin. *ENDOCRINOLOGIA JAPONICA* **26** (6) : 661-665, 1979.

#### ◆ 総 説

1) 矢野三郎, 中尾皖英: ホルモン不応症の病因による分類, 総合臨床 **28**(3) : 425-429, 1979.

2) 矢野三郎, 加藤弘巳: 蛋白同化ステロイドとその臨床, 治療学 **2**(3) : 356-359, 1979.

3) 矢野三郎, 鈴木英彦: Anaphylatoxin, Chemotaxin, Opsonin, 日本臨床 **37**(5) : 114-118, 1979.

4) 伊藤正己, 山村雄一: 肺胞マクロファージ, 臨床科学 **15** : 921-927, 1979.

5) 山村雄一, 伊藤正己: マクロファージの抗腫瘍作用, 臨床免疫 **11** : 502-510, 1979.

6) 矢野三郎, 中尾皖英: ステロイドホルモンのリセプター, 感染・炎症・免疫 **9**(5) : 13-20, 1979.

#### ◆ その他

1) 矢野三郎, 多留淳文: 医科大学における漢方研究・診療・教育への期待(対談), 漢方医学 **3** (2) : 3-9, 1979.

#### ◆ 学会報告

1) 中尾皖英, 野間啓造, 佐藤文三, 山村雄一, 松本圭史: 下垂体における5 $\alpha$ -reductase 活性及びTestosterone の代謝産物の意義について, 第16回日本臨床代謝学会, 1979. 2, 東京.

2) 鈴木英彦, 加藤弘巳, 矢野三郎, 西能 竝,

吉岡 勉: 高グロブリン血症を伴わないImmunoblastic Lymphadenopathy と思われた1例, 第102回日本内科学会北陸地方会, 1979. 3, 金沢.

3) 鈴木英彦, 加藤弘巳, 浅沼克次, 矢野三郎, 金丸哲宏, 北川常廣: エンザイムノアッセイ法によるゲンタマイシン測定法—血中及び尿中濃度測定とその臨床応用, 第27回日本化学療法学会, 1979. 6, 福岡.

4) 浅沼克次, 藤井 隆, 中尾皖英, 植村泰三, 矢野三郎, 山村雄一: 性ホルモンと免疫(第4報)—エストラジオールの雄ラット及びテストロンの雌ラット各リンパ組織の発育に及ぼす影響, 第52回日本内分泌学会, 1979. 6, 京都.

5) 野間啓造, 中尾皖英, 佐藤文三, 西沢恭子, 山村雄一, 松本圭史: ステロイドレセプターの活性化に伴うステロイド結合能の安定性の検討, 第52回日本内分泌学会総会, 1979. 6, 京都.

6) 中尾皖英, 西沢恭子, 佐藤文三, 野間啓造, 山村雄一, 松本圭史: 肝グルココルチコイド受容体に対するチオシアン酸塩の影響, 第52回日本内分泌学会総会, 1979. 6, 京都.

7) 前田義章, 西沢恭子, 野間啓造, 中尾皖英, 佐藤文三, 山村雄一, 松本圭史: マウスこう丸間質細胞のエストローゲン結合因子に関する研究(1)低分子による親和カステロイド特異性の制御, 第52回日本内分泌学会総会, 1979. 6, 京都.

8) 佐藤文三, 前田義章, 西沢恭子, 中尾皖英, 野間啓造, 山村雄一, 松本圭史: マウスこう丸間質細胞のエストローゲン結合因子に関する研究(2) in vitro 処理によるクロマチンとの結合力の獲得, 第52回日本内分泌学会総会, 1979. 6, 京都.

9) 伊藤正己, 山村雄一: NK活性に及ぼすBCGの影響, 第38回日本癌学会総会, 1979. 9, 東京.

10) 柗野富弥, 伊藤正己, 飯塚秀文, 小倉 剛, 平尾文男, 上宮正直, 東 市郎, 山村雄一: マクロファージの活性化機構と抗腫瘍効果に関する検討(第4報), 第38回日本癌学会総会, 1979. 9, 東京.

11) 飯塚秀文, 伊藤正己, 柗野富弥, 安波礼子, 小倉 剛, 平尾文男, 東 市郎, 山村雄一: マクロファージの活性化機構と抗腫瘍効果に関する検討(第5報), 第38回日本癌学会総会, 1979. 9, 東京.

12) 西川秀樹, 吉本崇彦, 坂谷光則, 伊藤正己, 小倉 剛, 平尾文男, 山村雄一, 東 市郎: 細胞性免疫に抗腫瘍作用を誘導するマクロファージについて, 第38回日本癌学会総会, 1979. 9, 東京.

13) 平尾文男, 小倉 剛, 伊藤正己, 西川秀樹, 吉本崇彦, 坂谷光則, 山村雄一: 3-メチルコラン

トレン(MCA)によるウサギの実験的肺癌—アミロイドーシス発生に及ぼす *Nocardia rubra*-cell wall skeleton (N-CWS) 投与の影響ならびに3,4-ベズピレン(BP)によるウサギの実験的肺癌発生について, 第38回日本癌学会総会, 1979. 9, 東京.

14) 加藤弘巳, 長谷部直子, 鈴木英彦, 藤井 隆, 浅沼克次, 矢野三郎, 金丸哲宏, 北川常廣: 酵素免疫測定法によるゲンタマイシンの測定—血中濃度測定とその臨床利用, 第19回臨床化学シンポジウム, 1979. 9, 大阪.

15) 野間啓造, 中尾皖英, 佐藤文三, 松本圭史, 山村雄一: 中枢神経系における Androgen の作用機構の検討, 第6回神経内分泌シンポジウム, 1979. 10, 東京.

16) 加藤弘巳, 藤井 隆, 鈴木英彦, 浅沼克次, 矢野三郎, 北川常廣: アミノ配糖体系抗生物質の酵素免疫測定法に関する研究, 第26回日本化学療法学会東日本支部総会, 1979. 11, 東京.

17) 加藤弘巳, 藤井 隆, 鈴木英彦, 浅沼克次, 矢野三郎, 北川常廣: 抗生物質の酵素免疫測定法とその臨床的応用, 第1報アミノ配糖体について, 東海・北陸合同内科地方会, 1979. 11, 浜松.

18) 伊藤正己, 飯塚秀文, 円山誓信, 渡辺 武, 岸本忠三, 山村雄一: モノクローナルなマクロファージ細胞株とB-ハイブリッドクローン由来抗体を用いたADCCの解析, 第9回日本免疫学会総会, 1979. 12, 東京.

## 内 科 学 (2)

教 授	杉 本 恒 明
助 教 授	水 村 泰 治
講 師	浦 岡 忠 夫
講 師	飯 田 博 行
助 手	寺 田 康 人
助 手	高 田 正 信
助 手	余 川 茂 茂
助 手	井 内 和 幸

### ◇ 著 書

1) 杉本恒明, 浦岡忠夫: Systolic time interval による心機能の評価, 202—212, 町井 潔他編, 心不全の診断と治療, 中外医学社, 1979.

2) 杉本恒明: 心房細動, 心房粗動, 224—225, 今日の治療指針1979年版, 医学書院, 1979.

3) 杉本恒明: 強心薬, 狭心症治療薬, 抗不整脈薬, 150—155, 脈拍の異常, 192—194, 阿部正和,

武内重五郎編, 治療総論, 医学書院, 1979.

4) 紺谷一浩, 杉本恒明: 症例55, 324—327, 症例57・58, 334—344, 日野原重明他編, 心臓病診療の新しいガイドンス, 医学書院, 1979.

5) 杉本恒明: 心筋梗塞の予後, 383—396, 上田英雄編, 心筋梗塞のすべて, 南江堂, 1979.

6) 杉本恒明: 心臓ペースングの電気生理, 41—52, 岩 喬編, 心臓ペースング最近の進歩, 人工臓器学会, 1979.

### ◇ 原 著

1) 杉本恒明, 石川忠夫, 粕野謙介: 心房ペースングに伴う心房・房室機能の変化, 第2回ペースメーカーに関する公開研究会プロシーディングス 160—162, 1979.

2) 紺谷一浩, 杉本恒明, 稲坂 暢, 浦岡忠夫, 大城康彦, 若狭 豊, 松下重人, 服部 信: 洞不全症候群と高度房室ブロック患者の症状と予後に対するペースメーカー植込みの影響, 呼吸と循環 27(9): 985—990, 1979.

3) Wakasa Y., Ikeda T., Oshiro Y., Numa T. and Sugimoto T.: Beneficial effects of diltiazem on reentrant tachycardia involving A-V conduction., Proceedings of the VIth World Symposium on Cardiac Pacing, Chap. 5, 1—4, 1979.

4) 寺田康人, 稲坂 暢, 杉本恒明: 運動負荷時の血行動態変化に及ぼす体位の影響, 心疾患患者と健常者での検討, 最新医学 34(12): 2727—2730, 1979.

5) 池田孝之, 関 敬信, 浦岡忠夫, 寺田康人, 杉本恒明, 他27名: 循環器疾患に対する CoQ<sub>10</sub> (Neuquinon) の多施設による治験成績, 臨床と研究 56(7): 2335—2343, 1979.

6) 木村 登, 村上元孝, 小沢利男, 尾山栄太郎, 杉本恒明, 他31名:  $\beta$ 遮断剤MK-950(Timolol) の労作性狭心症に対する臨床効果, 臨床評価 7(1): 11—26, 1979.

7) 杉本恒明, 板井 勉: 脚枝間リエントリーによるとと思われる心室頻拍の1例, 臨床心臓電気生理 2(2): 49—56, 1979.

8) 粕野謙介, 麻野井英次, 戸島雅宏, 杉本恒明: 広範囲に伝導障害のみられた完全左脚ブロックの1例, 臨床心臓電気生理 2(1): 77—84, 1979.

9) 木田 寛, 水村泰治: 急性び慢性間質性腎炎の臨床的特徴について, 日腎誌 21(8): 852—854, 1979.

10) Nakamoto Y., Kida H. and Mizumura